

平成 28 年 8 月 吉日

関係者各位

日本学術会議脱タバコ社会実現分科会委員長
APACPH2016 大会長
帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授
矢野 栄二

市民公開シンポジウム「脱タバコ社会実現をめざしタバコ対策の再構築を」ご参加のお願い

拝啓 皆様におかれましては時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は一方ならぬご芳情を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、第 48 回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議（APACPH2016）および帝京大学 50 周年記念国際学術会議の一環として、下記のごとく、日本学術会議脱タバコ社会実現分科会による市民公開シンポジウム「脱タバコ社会実現をめざしタバコ対策の再構築を」を開催いたします。

つきましては、タバコ対策等の公衆衛生に関わる実務者や研究者、一般市民等、多くの方にご参加いただきたく、本シンポジウムへのご参加ならびに周知のご協力を賜りたく、ご案内を差し上げました。

我が国では毎年 10 万人を超える人命がタバコのために奪われるとされており、タバコ対策の推進は焦眉の課題です。帝京大学は、教育機関・医療機関として、大学構内や病院の禁煙を進めるとともに、定期的に周辺街路の吸い殻清掃などの活動を行ってまいりました。

一方、日本学術会議は、これまでの五輪開催都市では公共の建物での屋内喫煙を禁じる条例や法制度を整備してきたことを踏まえ、平成 27 年 5 月「東京都受動喫煙防止条例の制定を求める緊急提言」を公表しています。しかしながら、そうした条例は作られず、対応をゆだねられた国での法律制定もいまだに見通しが立っていません。さらに、国のがん対策の中で 2022 年までに喫煙率の半減を掲げたにもかかわらず、喫煙率の減少傾向は足踏みを続け、目標達成は困難な状況です。

そこで、本シンポジウムでは、日本社会におけるタバコ問題の現状を把握し、最終的な脱タバコ社会実現に向けて何が必要なのか知恵を出し合い、対策を再構築してさらなる前進の契機にできればと考えております。皆様におかれましてはご多用の折誠に恐縮ではございますが、周知のご協力、ならびにご出席を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

同時に開催します「原発事故被災長期非難住民の暮らしをどう再建するか」のポスターも同封致します。併せてお目通しいただければ幸甚です。 敬具

記

1. 主 催：日本学術会議 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会
2. 共 催：帝京大学（創立 50 周年記念事業）
3. 日 時：平成 28 年 9 月 19 日（月・祝）13：15～15：15
4. 場 所：帝京大学板橋キャンパス大学本館 2 階 204 教室（板橋区加賀 2-11-1）
5. 内 容：別紙参照
6. 連絡先：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学大学院公衆衛生学研究科
矢野・福田 03-3964-1211（内線 46220）

第 48 回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議 (APACPH2016)

帝京大学 50 周年記念国際学術会議

日本学術会議主催 市民公開シンポジウム

脱タバコ社会実現をめざしタバコ対策の再構築

日時 2016 年 9 月 19 日 (月・祝) 13:15 - 15:15

会場 帝京大学板橋キャンパス 大学棟本館 2F 204 教室

東京都板橋区加賀 2-11-1

JR 埼京線「十条駅」より徒歩 10 分

JR 京浜東北線「王子駅」より国際興業バス 6 番のりば
「板橋駅」行 10 分「帝京大学病院」下車

～タバコをやめられない本当の理由を伝えたい～

開会の挨拶 帝京大学副学長 常務理事 冲永 寛子

受動喫煙防止法制定に向けて

日本学術会議連携会員, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長,
東京医科大学名誉教授 下光 輝一

電子タバコ等、新しいタバコについて

国立保健医療科学院生活環境部長 樺田 尚樹

喫煙と口腔病変との関連

日本学術会議連携会員, 九州歯科大学名誉教授 福田 仁一

タバコの安全性と表示・広告 - 消費者保護の視点から

日本学術会議会員, 日本学術会議健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の
実現分科会副委員長, 独立行政法人国民生活センター理事長 松本 恒雄

タバコ企業の研究費補助・「社会貢献 (CSR)」活動について

日本学術会議特任連携会員, (前)独立行政法人国立がん研究センタ
ーがん対策情報センターたばこ政策研究部長 望月 友美子

閉会の挨拶

日本学術会議連携会員健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の
実現分科会委員長, 帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授 矢野 栄二

司会進行 帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授, 帝京大学スモークフリー委員会委員長 福田 吉治

入 場 無 料

開 場 : 13 時 00 分

定 員 : 150 名

(申込不要)



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN



TEIKYO



歴史をしのぐ未来へ



問合せ先

帝京大学大学院公衆衛生学研究科 Tel : 03-3964-1211 (内線 46220)

主 催 日本学術会議 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会

共 催 帝京大学 (創立 50 周年記念事業)

後 援 板橋区・北区・日本医歯薬アカデミー

日本学術会議主催 公開シンポジウム

原発事故被災長期避難住民の暮らしをどう再建するか

あれから5年半。暮らしと住まいの現状と新たな提言に向けて

日時 2016年9月19日(月/敬老の日) 13:00 - 16:00

会場 帝京大学板橋キャンパス 本部棟2F 臨床大講堂

東京都板橋区加賀2-11-1

- JR 埼京線「十条駅」下車、徒歩 10 分
- JR 京浜東北線「王子駅」下車
国際興業バス 6 番のりば「板橋駅」行 10 分、
「帝京大学病院」下車

全体司会進行

日本学術会議連携会員、帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授／矢野 栄二

開 会（主催者挨拶） 13:00-13:10

日本学術会議会員、日本学術会議 第1部部長、神奈川大学法学部教授／小森田 秋夫
帝京大学 理事長・学長／沖永 佳史

シンポジウム趣旨説明 13:10-13:20

日本学術会議会員、一橋大学大学院社会学研究科教授／町村 敬志

報 告 13:20-15:00 司会：町村 敬志

I. 原子力災害被災地の復興計画と帰還問題

日本学術会議会員、帝京大学経済学部地域経済学科長／山川 充夫

II. 原発事故後における福島県相双地区住民の健康について

南相馬市立病院内科医／坪倉 正治

III. 帰還と移住の中の原発事故被災者コミュニティ

日本学術会議連携会員、大妻女子大学社会情報学部教授、東北大学名誉教授／吉原 直樹

IV. 原発災害避難住民の「二重の地位」の保障

- 「生活の本拠」選択権と帰還権を保障する法制度の提案 -

日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院法務研究科教授／岡田 正則

質 疑 15:15-15:45 司会：町村 敬志

閉 会（まとめとお礼の言葉） 15:45-16:00

日本学術会議連携会員、原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会委員長、国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー、
フューチャー・アース国際事務局日本ハブ事務局長／春日 文子



福島市内仮設住宅における一室の様子

主催 日本学術会議

- ・東日本大震災復興支援委員会/原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会
- ・社会学委員会/東日本大震災の被害・影響構造と日本社会の再生の道を探る分科会

共催 帝京大学(創立 50 周年記念事業)

後援 福島大学つくしまふくしま未来支援センター

科学研究費基盤研究 S「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」

入 場 無 料

開 場 : 12 時 30 分

定 員 : 400 名(申込不要)

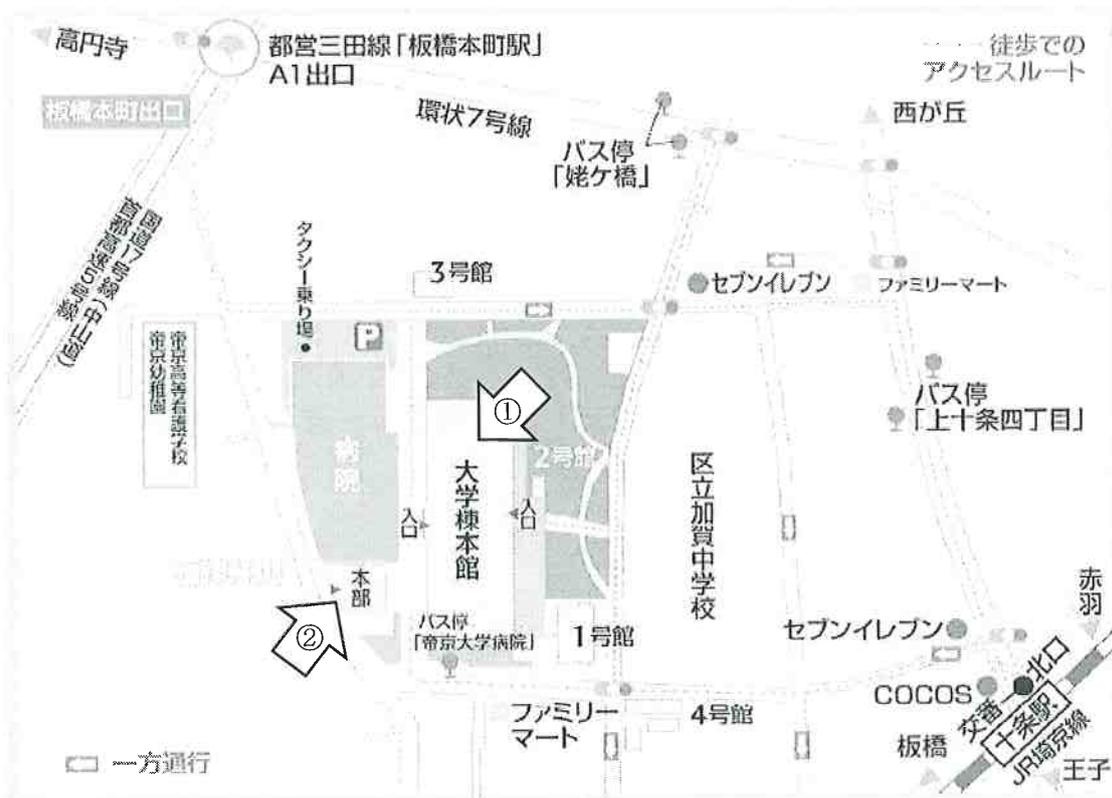
2016年9月19日(月・祝)
日本学術会議主催 市民公開シンポジウム会場
帝京大学板橋キャンパス

①「脱タバコ社会実現をめざしタバコ対策の再構築を」

大学棟本館2階 204 教室 13:15～(13:00 開場)

②「原発事故被災長期避難住民の暮らしをどう再建するか」

本部棟2階 臨床大講堂 13:00～(12:30 開場)



東京都板橋区加賀2-11-1

<電車>

■JR 埼京線「十条駅」北口より徒歩 10 分

■都営地下鉄三田線「板橋本町駅」A1 番出口より徒歩 13 分

<バス>

■王子駅 ⇒ 帝京大学病院前 下車(約 10 分)

JR 京浜東北線または地下鉄東京メトロ南北線「王子駅」北口バスロータリー⑥番乗り場より、『王 22 系統』帝京大学病院経由、板橋駅行きにご乗車ください。